



報道発表資料の配付日時 9月13日(火) 14時00分

発表項目 (行事名)	「令和4年(2022年)環境の状況等に関する年次報告」について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>北海道環境基本条例第8条に基づき、令和3年度(2021年度)の北海道における環境の状況や施策の内容等を「環境の状況等に関する年次報告」として取りまとめ、本日開催の北海道議会第3回定例会において報告しましたので、お知らせします。</p> <p>○配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年(2022年)環境の状況等に関する年次報告」の概要 ・令和4年(2022年)環境の状況等に関する年次報告 		
参考	本報告書をもとに作成した「北海道環境白書'22」を12月頃に道のホームページにて公表する予定です。		

報道(取材)に当たってのお願い	本道の環境の状況や環境に関する施策の取組状況を記載していますので、参考にしてください。		
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	
	同時レク		

担当 (連絡先)	環境生活部環境保全局環境政策課企画調整係 課長補佐 池谷 佳久		
	TEL 011-231-4111 (内線24-204)		
	直通 011-204-5187		

「令和4年（2022年）環境の状況等に関する年次報告」の概要

1 報告の趣旨

北海道環境基本条例第8条に基づき、本道における環境の状況や講じた施策の内容等を年次報告として取りまとめ、毎年、議会に報告するもの

2 構成

- 「環境トピックス」と令和3年度の「環境の状況及び取組実績(6つの章)」で構成
- 北海道環境基本計画〔第3次計画〕(令和3年3月改定)の施策の体系に沿って作成

序章 環境トピックス

第1章 地域から取り組む地球環境の保全

第2章 北海道らしい循環型社会の形成

第3章 自然との共生を基本とした環境の保全と創造

第4章 安全・安心な地域環境の確保

第5章 共通的・基盤的な施策

第6章 地域における主な環境保全の取組

3 各章の内容

序章 環境トピックス

1 2050年「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた道の取組について

- ・国の温室効果ガス削減目標の見直しを受け、令和4年（2022年）3月に計画を改定し、2030年度の温室効果ガス削減目標を2013年度比で48%削減に見直し
- ・環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組を推進

2 プラスチック資源循環の促進について

- ・ポイ捨てなどによるプラスチックごみの海洋流出など、プラスチックごみ問題は世界全体で取り組むべき喫緊の課題
- ・道では、令和2年度（2020年度）から2カ年で、海洋プラスチックごみ発生抑制対策調査を行い、海洋に流出するプラスチックごみの実態を把握し、発生抑制を啓発
- ・令和4年（2022年）4月の「プラスチック資源循環促進法」施行を踏まえ、市町村による分別収集や事業者による再資源化が進むよう必要な助言等を行うとともに、プラスチックごみ削減に向けた道民の実践行動の定着を促進

3 北海道ヒグマ管理計画（第2期）の策定について

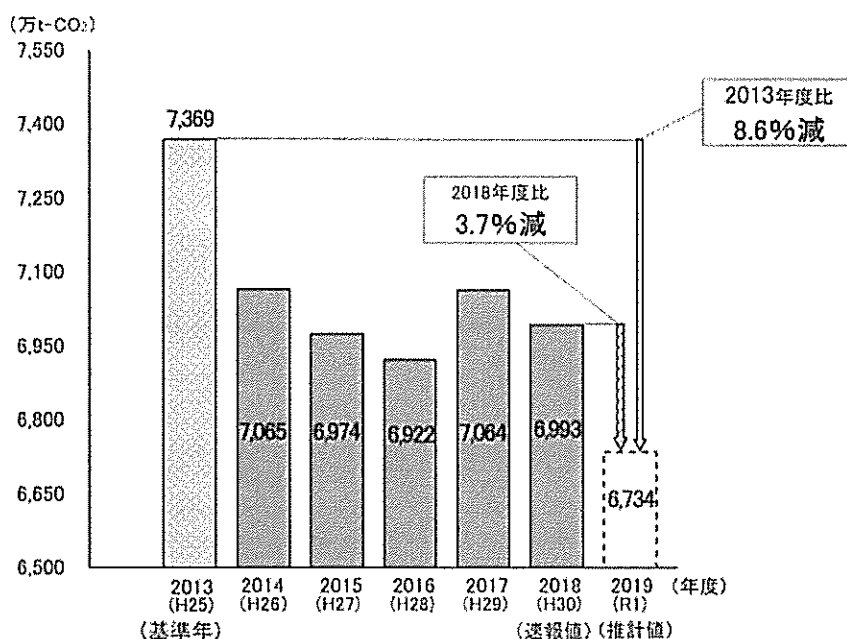
- ・道内各地で頻繁に人の生活域へヒグマが出現し、令和3年（2021年）6月には札幌市の市街地でも人身事故が発生
- ・令和4年（2022年）3月、出没の抑制から出没時の対応までの総合的な対策を強化していくため、「北海道ヒグマ管理計画（第2期）」を策定
- ・地域対応力の強化、個体数調整のあり方などについての検討、狩猟期間等の見直し、調査研究とモニタリングの推進など、管理計画の目標達成に向けた取組を推進

第1章 地域から取り組む地球環境の保全

[主な状況]

■道内の温室効果ガス排出量と道民1人当たりの排出量（令和元年度(2019年度)推計値）

- ・道内の温室効果ガス排出量（推計値）は、6,734万t-CO₂、前年度比で3.7%減、2013年度比で8.6%減
- ・道民一人当たりの温室効果ガス排出量（推計値）は、12.8t-CO₂、前年度比で3.0%減（全国は9.6t-CO₂）



「速報値」：国の統計等データを用い、平成30年度(2018年度)の温室効果ガスの予測値を算出

「推計値」：国の統計等データと他の統計実績値等から推計し、令和元年度(2019年度)の排出量の概算値を算出

[主な取組]

■「緩和」の推進に向けた道の取組

- ・北海道地球温暖化防止活動推進センターと連携した、道民、事業者への普及啓発
- ・エネルギー地産地消のモデル事業や新エネ設備の導入への支援
- ・水素利用の認知度向上などのため、FCV等による水素利活用や優位性について普及啓発
- ・CO₂削減と森林保全活動に貢献するための企業との共同キャンペーン^(※)を実施
- ・脱炭素化に向け、関係者が連携、協働しながら効果的な取組を進め、全道に拡大するため「ゼロカーボン北海道推進協議会」を設置（令和3年6月）

※ 2013年度からスタートし、取組が拡大している「北海道の森に海に乾杯！」協働キャンペーン

■「適応」の推進に向けた道の取組

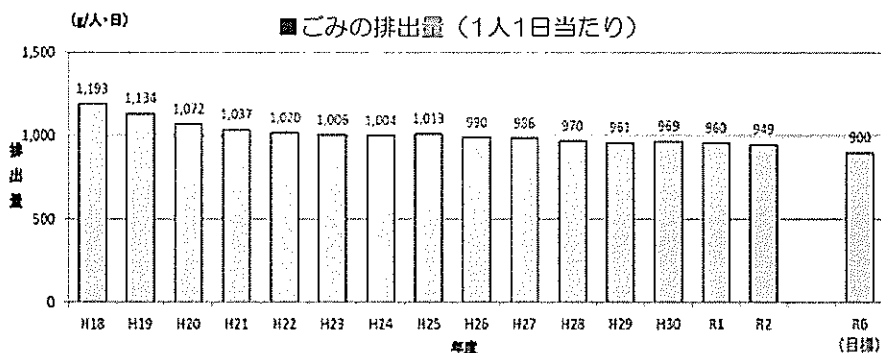
- ・北海道立総合研究機構、北海道環境財団や関係機関の協力を得て、「気候変動適応センター」を開設（令和3年4月）
- ・市町村における理解促進を図るため、自治体職員向けセミナーや勉強会を開催
- ・適応に関する情報のプラットフォームとして、道内の気候変動適応に関する研究論文等を収集し、わかりやすく分類するなど情報を発信

第2章 北海道らしい循環型社会の形成

[主な状況]

■ごみの排出量

- ・道民1人1日当たり排出量は減少傾向、目標(R6)900g/人・日に対し、949g/人・日(R2)



[主な取組]

■スリーアール 3 R^(※1) の推進

- ・知事メッセージ「プラスチックとの賢い付き合い方」の発信による取組の呼びかけ
- ・北海道ゼロ・エミ大賞^(※2)の表彰(優秀賞1件)
- ・市町村と連携した3Rキャンペーンの実施

※1 Reduce(発生抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再生利用)の3つのR(アール)の総称

※2 廃棄物の発生・排出抑制等の取組を行っている模範的な事業者の表彰制度

■廃棄物の適正処理の推進

- ・PCB廃棄物等の実態把握調査や電気機器のPCB分析費用の補助を実施
- ・不法投棄等の防止に向け、ヘリコプターによるスカイパトロール、監視カメラやドローンなど新たな技術を活用した監視活動の一層の充実、廃棄物運搬車両の路上検問、通報フリーダイヤル「産廃110番」等による早期発見・早期対応の実施

■バイオマスの利活用の推進

- ・「北海道バイオマスネットワーク会議」によるメールマガジンの発行やセミナーの開催などによる先進的な利活用情報を発信

■循環型社会ビジネスの振興

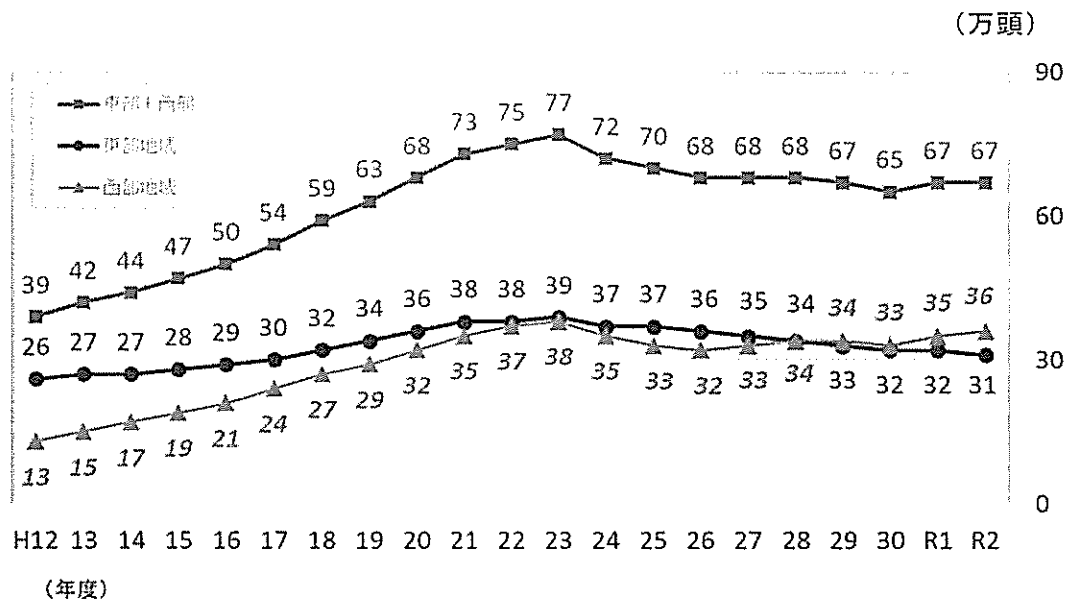
- ・循環資源利用促進税を財源に、産業廃棄物のリサイクル等設備整備や研究開発に対する補助、中小企業等へのリサイクルアドバイザーの派遣などを実施
- ・道の認定制度に基づくリサイクル製品及びリサイクルブランド製品の普及啓発

第3章 自然との共生を基本とした環境の保全と創造

[主な状況]

■全道におけるエゾシカの推定生息数など

- ・生息数は、67万頭と推定（令和2年度（2020年度））
- ・捕獲数は、約13万頭（令和2年度（2020年度））



[主な取組]

■自然環境等の保全及び快適な環境の創造

- ・道内で生物多様性の保全等に関して優れた活動・模範的な活動を行う企業、団体などを表彰する「未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞」として3団体を表彰

■自然とのふれあいの推進

- ・アジアで初めて開催された「アドベンチャートラベル・ワールドサミット」（令和3年9月）において、道内の優れた自然を活かした体験型観光を発信
- ・北海道ボランティア・レンジャー等を活用した自然観察会等を開催
- ・動物愛護管理センター機能について検討し、「動物愛護管理業務のあり方」を決定

■野生生物の保護管理

- ・アライグマなど外来種の防除、国内外来種であるアズマヒキガエルを目撃情報マップや防除事例のホームページでの公表による拡散防止の呼びかけ
- ・エゾシカ捕獲事業の展開及びエゾシカ肉処理施設認証制度による安全・安心なエゾシカ肉の提供、消費拡大、SNSを活用したエゾシカ肉の魅力発信
- ・北海道ヒグマ管理計画に基づく科学的かつ計画的な保護管理及び生息実態を把握するための多面的な調査研究事業を推進

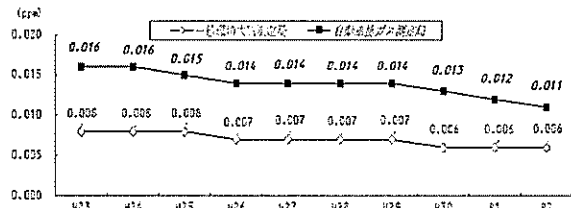
第4章 安全・安心な地域環境の確保

[主な状況]

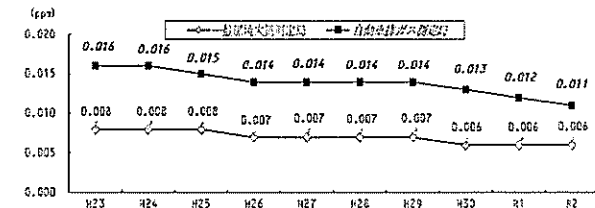
■大気環境基準達成状況 (R2年度 (2020年度)) (達成率: 100%)

区 分	測定局数	環境基準達成測定局数	達成率 (%)
窒素酸化物 (NO ₂)	65	65	100
浮遊粒子状物質 (SPM)	61	61	100
硫黄酸化物 (SO ₂)	56	56	100
計	182	182	100

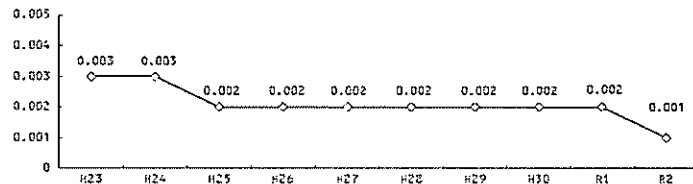
○窒素酸化物の年平均値の経年変化



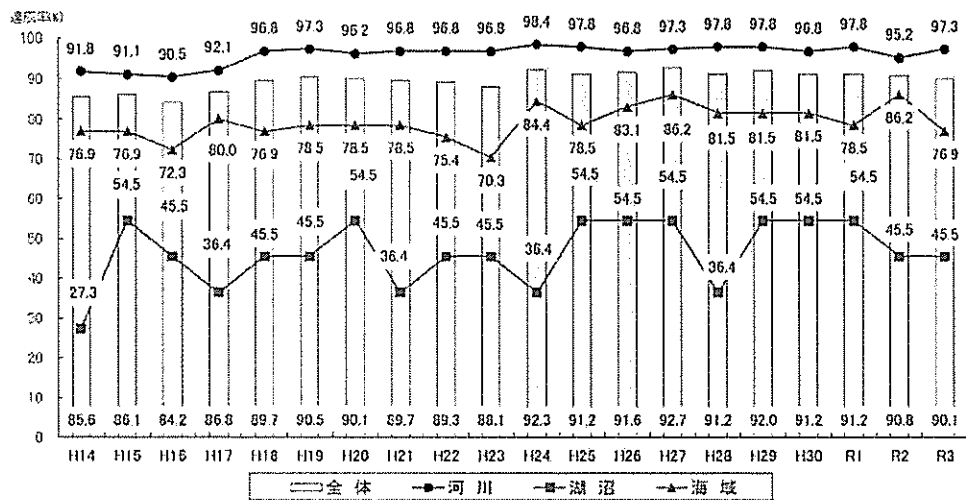
○浮遊粒子状物質濃度の年平均値の経年変化



○硫黄酸化物の年平均値の経年変化 (一般環境大気測定局)



■公共用水域の環境基準達成率の推移 (水域別) ※R3は速報値 (達成率: 90.1%)



[主な取組]

■大気・水環境の保全

- ・工場等への立入検査による監視・指導
- ・道民への注意喚起を目的としたPM_{2.5}に係る測定データ等の公開
- ・水道事業者間の広域連携を図りながら、水質管理の検査体制の整備等を行い、水道水源保全施策を推進

■その他の環境保全対策

- ・自動車、航空機騒音の環境基準達成状況の把握、関係自治体等と連携した騒音防止対策の推進

第5章 共通的・基盤的な施策

[主な取組]

■環境に配慮する人づくりの推進

- ・「北海道地域環境学習講座『eco-アカデミア』^(※1)」など、各種啓発事業の実施
- ・小学生を対象とした環境教育を行う北海道フロンティアキッズ育成事業を企業等の支援を受けながら、環境財団と道教育庁との協働により開始
- ・道民、事業者、行政が連携して環境保全活動に取り組む環境道民会議において、ウィンターミーティング^(※2)を開催

※1 住民団体等が開催する環境学習講座への講師派遣事業

※2 環境道民会議との共催で実施している、先進事例等の紹介及び意見交換会

■環境と経済の好循環の創出

- ・ゼロカーボン北海道の実現に向けた具体的取組を宣誓し実行する事業所を「ゼロカーボン・チャレンジャー」として登録し、道がPRする取組を開始
- ・「北海道グリーン購入基本方針」に基づく環境物品等の積極的な調達

■基盤的な施策の推進

- ・発電所の建設など、大規模事業が環境に及ぼす影響について調査、予測、評価を行い、一連の手続きを通じて環境への配慮が適切に行われるよう、環境影響評価制度を運用

第6章 地域における主な環境保全の取組

- ・各（総合）振興局における自然観察会や清掃活動、地球温暖化防止パネル展の開催など地域の環境保全に係る普及啓発等の取組を紹介

○エゾシカ肉の有効利用の取組（空知、根室）

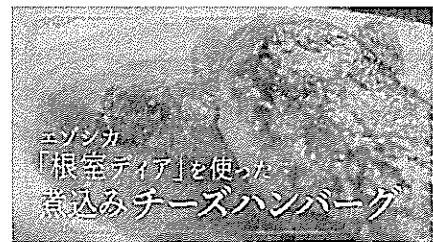
部位を学ぶ（空知）



親子料理体験（空知）



実演動画公開（根室）

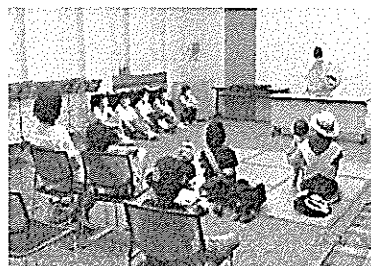


○ガイアナイト（胆振、上川、十勝、釧路）

エコキャンドル（胆振）



絵本読み聞かせ（十勝）



展示の様子（釧路）

